

## 演劇的要素を取り入れた授業の試み — 「声に出して学ぶ日本語」 —

杉山ますよ

本授業では様々なジャンルの日本語（文学作品、お笑い、シナリオ、広告など）を声に出して読むこと、また様々な場面を想像し、即興的に演じることを目的として行った。

具体的に授業で行った活動は群読、朗読、ドラマリーディング、お笑い、インプロ的な（即興）活動、連詩の作成である。

群読とは「複数の読み手による朗読」で、作品を効果的に表現するため読み方に様々な工夫を凝らし、読むことである。ソロ、アンサンブル、全員、繰り返し、掛け合いなど様々な形式で、また声の強弱、速さ、間なども工夫をして読む。しかし本授業では学生間の作品への分析、話し合いに基づき、体での表現もよしとした。ドラマリーディングはグループでシナリオや小説などの一部を読んだり、演劇的にアレンジして演じたりした。コントは実際にお笑い芸人が演じたものを鑑賞、何がおかしいのかを分析し、その場面をそのまま、あるいはアレンジして演じた。

インプロ的な活動は多くの学生間でのアイスブレーキングのひとつとして取り上げた。また即興的にメンバーと協力して場面を作り上げる活動も取り入れた。

想定した効果は、①クリエイティブなアイデアや、自分自身の経験からくる意見を、自由に表現できるようなる。②仲間と協働して学ぶ楽しさから協調の大切さに気づく。③自分の仲間と話し、さらに他のグループの発表を見ることで様々な発想があることに気づく。④発想力・瞬発力が高まり、自分の枠を越えた発想・発見ができるようになる。⑤日本の文学作品、お笑い（落語、コント）などの良さ、おもしろさに気づいたが、学生の毎回の発表、授業の振り返りシートからのコメントからも①～⑤に関する肯定的なコメントが得られた。

今回の授業で演劇的な要素を取り入れた今回のような授業は様々な可能性を含んだ総合的な活動だと実感した。